



大野市教育委員会たより

令和元年10月11日発行 第25号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思えます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月2日（水）午後7時～9時

場所：文化会館 名水の間

対象者：大野の未来を考える会会員（9人）

※以下は、「意見交換」で会員の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

◆教育長あいさつ

学校再編については、いろいろな方々と話し意見を伺いながら、良い形にしていきたいと思っている。今日は、未来の学校をどのようにしていけばいいかを考える機会にさせていただければと思う。

再編計画を見直ししているというが、意見を聞くと、結局、平成29年1月に策定した再編計画に戻るのではないかと指摘を受けるが、結論から言えば、それはないと思う。市長も再編計画の見直しを公約に掲げている。教育委員会も決議しているため、原案に戻ることはないと思う。

しかし、私たちは何らかの方法で再編は必要であると考えている。ある程度の規模で教育を展開していく必要はある。学校数（中学校1校、小学校2校）、再編時期（令和5年度に中学校、令和8年度に小学校を再編）、再編の方法（学校を新築する）を見直していくこととしており、現時点ではこの3点については白紙である。

また、再編計画見直しの取り組みでは、意見交換会で約40箇所を回る。意見交換会を回った、意見を聞いたという実績を作っているだけではないかと指摘される方がいる。意見交換会ではいろいろな方々と会い、いろいろな意見を聞き、私たちの想いも聞いていただく絶好の機会と考えている。これを最大限活用しながら、再編計画を作っていきたいと考えている。

情報公開については、いきなり計画を出すことは避けなければならないと考えている。どのような経緯や経過に基づいて結論に至ったかを可能な限りお知らせしながら、進めていくのが理想であると考えている。市民にいろいろな情報を伝え、一緒に考えていただくというのが市長の思いでもあり、私たちの思いでもある。丁寧に進めていきたい。

◆山本代表あいさつ

本会は、再編計画（案）が策定された時、保護者などが不安に感じる中、大野の将来を真剣に考えていかなければならないと思う方々で出来た。再編すべてに反対という訳ではない。最終的な形が、大野の将来に向け良い方向に進めばと思っている。それぞれの地域の形が違う中で、大野にとって本当に良い形を考えなければならぬ。身の回りで、子どもが激減していることは感じており、今の学校の状態が長く続くとは思っていない。慎重な形で、後悔しないような学校再編をして欲しい。

◆意見交換された主な内容（会員からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表記）

◎情報公開について、市長も教育長も大野市情報公開条例第7条第5号（行政における内部的な審議、検討又は協議が円滑に行われることを確保する観点から非公開情報と定めたもの）については、ケースによって適

切に行くと市議会で言っていた。裁判の決定では、会議が非公開であったとしても、会議終了後は非公開に当たらないとしているので、今後の情報公開はもっと踏み込んだものにして欲しい。教育委員会は情報公開制度を一から勉強するべきである。県は教育大綱を議論する総合教育会議で知事が、今までは学力向上を進めていたが、今後は児童生徒の個性を伸ばす、過疎地域の教育を充実させると言っていた。県教育大綱の指針に沿って、大野市の教育大綱も策定していかないといけない。

⇒ ■情報公開については、どのような経緯で結論に至ったかをお知らせしていく必要がある。各回の概要や決定したことを分かってもらえるように丁寧に説明していきたい。

市の教育大綱について、学力向上は今後も目指していく。個性は最も大切なものであり、今までもそうであったが、より焦点を当てていきたい。例として、宿題はこれまで一律に出していたが、今後は個別に興味や関心、進み具合などを配慮した出し方を検証している。過疎地域については、自分も分校で育った。精一杯大切にしていきたい気持ちは変わらない。

◎敦賀市では、東浦小中学校が地区の求めに応じて特認校として開校する予定で、校区もはずされ、全国からも応募している。出来れば、和泉小中学校を特認校として残して欲しい。

⇒ ■先般、和泉小中学校で意見交換会を行った。参加された方の地区を想う気持ちを受け止めたし、授業などで子ども同士が十分に意見交換できない不安も聞いた。地域の中で子ども達をちゃんと育てていきたいと想いも受け取った。特認校としての方向性も考えていく必要があると思う。和泉も含めて市内のスクールバスすべてに乗車し体感した。通学などを含め1つ1つ丁寧に進めていきたい。

◎教育委員会の傍聴を毎回してきた。以前の教育委員会は公開が多かったが、今は非公開が多い。

⇒ ◎今は、会議資料もホームページで公開されている。以前は公開されていなかった。

⇒ ■資料も議事録も現在は公開している。その点では、情報公開を進めていると思っている。

⇒ ◎定例教育委員会での非公開が多いという意味である。

⇒ ■委員を選ぶ人事議案や指定校変更などは非公開としている。また、市議会の承認が必要なものは、承認を得てからホームページで公開している。情報公開は積極的に行いたいと思っているが、そのような印象をもたれていることを受け止めてさせていただく。

◎平成30年11月14日の裁判判決後の教育委員会のホームページにおいて、判決文が別紙のとおりとなっていて、公開されていない。

⇒ ■ある時点から教育委員会での提出資料も公開している。一度確認する。

⇒ ◎県議会では傍聴者にも資料を出しているのので、今後、教育委員会でもそうして欲しい。

◎今年は再編計画見直しで意見交換会を行い、次の段階では学校教育審議会を開いて協議をしていくのか。

⇒ ■なんらかの組織を設置し、検討していく必要があると考えている。

⇒ ◎学校再編に無関心な人が委員となり、多数決で決まるのではどうしようもない。意見交換会は参加者は少ないが、そこで出た意見を大切にしたい。学校再編の第一は、子どもの幸せである。学校再編すれば、地域の良い伝統や文化を衰退させる。地域の要望を大切にしたい再編の見直しであって欲しい。地域の実情を無視した形であってはならない。

⇒ ■市内の小学校6年生と中学校2年生全員にアンケートを行い、考えを聞いている。それぞれの分野の方々から意見を聞いていきたい。

◎いつごろ、計画案が出来て、いつごろ私たちに説明されるのか。

- ⇒ ■来年度には、なんらかの組織で検討し、計画見直し（案）の説明に回る予定としている。パブリックコメントも行うこととしている。
- ⇒ ◎学校教育は、人間のベースをアップさせることである。子どもの時、幸せだったと感じられるのが必要である。生涯学習で地域に立つと、そこに学校があると良いと実感している。
- ⇒ ◎検討する組織のメンバーで、各団体の代表にすると60～70歳の人が集まる気がする。この年齢の方々が斬新な考えが果たして出てくるのか疑問である。日中の会議では若い人は集まらない。子どもがいる方がメンバーに入らないといけない。私たちが納得するメンバーで検討して欲しい。よく区長が選ばれているが、大野について話すことが出来るのか。その区長が地元に戻って区民に話をすることは無い。
- ⇒ ■お年寄りの意見も大切であると思っている。最終的には、自分の子どもに保護者がどのような教育を受けさせたいかだと思う。その学校に保護者は自分の子どもを行かせようと思うかである。



- ◎教員OBである。小規模校も大規模校も経験してきた。小規模校ほど地域の人が学校を大事にする。学校がなくなると地域の人が集える場所がなくなる。小規模校だから教育ができない訳ではない。ITを使えば、お互いに意見を言い合える。中学校で好きな部活が出来ないというが、これは子どもが部活をしている保護者が言うことである。部活をしている子を持つ保護者はたくさんいるのか。働き方改革と言われ、教職員が土日を使ってまで部活をする時代ではない。中学校を1つにするのではなく、大野市で指導者を雇って、スポーツ少年団のようにやれば良い。子どもの要望に合わせられる。
- ⇒ ■その考えは、自分たちも思っているが、段階を踏んでやっていかないといけない。出来る所からやっていかないとと思っている。
- ⇒ ◎大規模校、小規模校それぞれにメリット、デメリットがある。現在の各学校は、それぞれに特徴がある。学校が1つや2つになると画一的な子どもしか出来ない。特色ある教育が出来るように学校はいくつかあった方が良い。
- ◎現在行っているアンケートの内容について、子どもに対して具体的な数字で問いかける内容に対し腑に落ちない。誘導しているようにしか思えない。アンケート結果は今後どうするのか。
- ⇒ ■小中学生のアンケート結果は市ホームページに掲載している。各学校の結果と全体の結果を出している。小中学生やその保護者、保育所や認定こども園の保護者、教職員、地区の方々など幅広くアンケートを取り、その結果を再編を検討する資料として取り扱っていく。
- ⇒ ◎自分もアンケートの内容に不安を感じていた。以前の教育委員会は文部科学省の適正規模人数を前面に出してきた。学校は2クラスないといけない、1学年2学級以上ないといけない、そんな必要はない。どのような状況であれ、子どもが一生懸命学習できるのが教育環境である。不足があれば学校で考えれば良い。
- ◎乾側小の校舎の耐震はどのように計画しているのか。計画がまとまったら、議会や市民にどのように説明するのか。

⇒ ■ 12月から旧蕨生小で授業をしてもらうこととしている。学校再編とは別に、子ども達の命を最優先に考えた結果である。計画については12月議会で示していく予定である。今、計画の方向について、地域の方や保護者と話し合っている所である。乾側小の再編や耐震化については、その時その時の方々が一生懸命考えて、今に至っていると思っている。

◎ 学校の適正規模とは、教職員の能力だと思う。10人しか見る事が出来ない人や50人を見る事が出来る人がいると思う。1つのクラスに対して、教職員が何人の子どもに目が行き届くかということだと思うので、教職員それぞれに自分がクラスを持つなら何人がいいかを聞くと良いと思った。

⇒ ■ 文部科学省の適正規模を意識してのアンケートではない。再編計画見直しの検討の中で、クラス数や1学級の人数は多くの方々から聞いておく必要があると考えた。自由記述欄の意見を大事にしていきたい。

⇒ ◎ 最終的に、中学校何校、小学校何校が良いという正解は誰も持っていない。どんな形にしても、良い所、悪い所が出てくる。地域や保護者の意見を継続して聞いていただきたい。

◎ 地域の話より、子どもを主体とした再編をして欲しいという意見があったが、学校の存在は地域にとって大きなことである。また、不登校や発達障害の子どもたちが行きやすい学校にならないといけないと思う。その子どもたちのためにも、地域に学校を残していくべきと考える。

⇒ ■ 今まで再編は地域に学校が1つずつ残った。これからの再編は地域を越える。その時に、子どもなのか地域なのかの議論になる。学校は誰のためにあるのかの基本を押さえておかないといけないと思う。非常に難しい問題である。

⇒ ◎ 平成16年度の再編時に、当時の教育委員会は「これで地域に学校が1つずつになった」と言った。そのための子どもの人数合わせをしていたのかと感じた。

◎ 大野の人口を増やすような、そんな子どもたちが欲しい。良い所だけを残して、少しでも長く楽しくみんなで暮らせる大野、そんな学校をどんな形で作っていくかを相談させて欲しい。自分の子どもは、小学校にいたとき、全校生徒全員の名前を知っていた。こんな素晴らしいことはない。教育委員会で、今年、いろいろな意見を聞いて、こういう教育環境が良いとどのように市民に伝えられるのか、どのようにまとめられるのか、どのように展開されるのか。

⇒ ■ 今の段階で教育環境についての方針は言えるほど整理出来ている訳ではない。現在の学校は1クラス20人台が多く、その環境は良いと感じている。これまでの学校における当たり前を、改めて見直ししながら、再編を考えていきたい。

⇒ ■ これまで教職員として経験してきたことを大事にしていきたい。加えて、現在行っている意見交換会で、直接聞いて、感じたことに基づいて自信を持って今後提案していきたい。

◎ 大規模校が良いのか、小規模校が良いのかは、それぞれ体験したものしか分からない。学校再編については無関心な方が多い。特に市街地に住んでいる方はそうである。大野高校のPTA活動に参加した時、大野へ帰って来たいと望んでいる生徒が多いのを感じた。地域は自分たちで何とかするしかないという立場になった時、住民はすごい力を発揮する。大野らしい、大野の良い所が伸びていくような学校になると良いと感じている。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました会員の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

